

識者・人事教育コンサルタントから

人材開発スタッフへ 「おすすめの1冊」



温故知新の言葉通り、人材育成担当者には新しい知識、古い知識ともに積極的に学んでいくことが期待されている。そこで、識者の方に、近年発行された本のなかから人材育成担当者へすすめたい1冊を挙げていただいた。内容は教育理論についての本、マネジメントに関するもの、教養として読んでおきたい本など、さまざまなジャンルにわたっている。読書案内として役立てていただきたい。

※書籍データについては、複数の訳や判型がある場合、もっとも入手しやすいと思われるものを編集部で選んだ。

ワーク・シフト

社会

孤独と貧困から自由になる働き方の未来図〈2025〉



リンダ・グラットン 著
池村千秋 訳

プレジデント社
2012年8月発行
2,100円(税込)

〔目次〕

- 働き方の未来は今日始まる
- 働き方の未来を予測する
- 第1部
なにが働き方の未来を変えるのか？
- 第2部
「漫然と迎える未来」の暗い現実
- 第3部
「主題的に築く未来」の明るい日々
- 第4部
働き方を“シフト”する
未来のために知っておくべきこと

2025年、私たちの「働き方」はどう変わっているだろうか？ 主体的な働き方を考えるための1冊。職場の多様化のなかには仕事観の多様化も含まれる。この本はダイバーシティの理解の助けにもなるだろう。4人の識者がこの本を推薦した。

人を伸ばす力

理論・考え方

開発と自律のすすめ



エドワード・L・デシ、
リチャード・フラスト
著／桜井茂男 監訳

新曜社
1999年6月発行
2,520円(税込)

〔目次〕

- 第1部 自律性と有能感がなぜ大切なのか
- 第1章 権威と服従
- 第2章 お金だけが目的さ
- 第3章 自律を求めて
- 第4章 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 第5章 有能感をもって世界とかわる
- 第II部 人との絆がもつ役割
- 第6章 発達の内なる力
- 第7章 社会の一員になるとき
- 第8章 社会のなかの自己
- 第9章 病める社会のなかで
- 第III部 どうしたらうまくいくか
- 第10章 いかん自律を促進するか
- 第11章 健康な行動を促進する
- 第12章 統制されても自律的に生きる
- 第IV部 この本で言いたかったこと
- 第13章 自由の意味

教育担当スタッフにとっては気になるタイトルだろう。鉛と鞭ではない、課題に自発的に取り組む「内発的動機づけ」と自分で決定する「自律性」の重要性について解説する。3人の識者から挙げられた。

理論・考え方

拡張による学習

活動理論からのアプローチ

ユーリア・エンゲストローム 著/
山住勝広ほか 訳
新曜社

1999年8月発行
3,675円(税込)

職場学習論

仕事の学びを科学する

中原 淳 著

東京大学出版会

2010年11月発行
2,940円(税込)

人間らしさとはなにか？

人間のユニークさを明かす科学の最前線

マイケル・S・ガザニガ著／柴田裕之 訳

インターシフト

2010年3月発行
3,780円(税込)

経営学習論：人材育成を科学する

中原 淳 著

東京大学出版会

2012年9月発行
3,150円(税込)